

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(平成30年3月分)

平成30年5月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

イ スルプスカ共和国(RS)

ウ ブルチュコ特別区

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構 (EU加盟プロセスを含む)

(2) 二国間関係

3. 経済

(1) 経済政策、公共事業

(2) 経済協力

(3) 民間セクター

(注: 以下は、現地紙など公開情報をとりとまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●「2018～2023年BH外交戦略文書」の採択(13日)

13日、大統領評議会は、「2018年～2023年BH外交戦略文書」を採択した。同外交戦略は、2003年に採択され、BH外交方針の基本原則、方向性及び優先順位を示す唯一の文書であった「BH外交の基本方針」を15年ぶりに更新・置換するもの。①安全と安定、②経済発展、③自国民保護と国際法的協力、④BHの宣伝促進の4つの柱で構成され、この戦略を基に外務省は2年ごとにアクション・プランを作成し、外交を進める。なお、EU及びNATOへの加盟は、①安全と安定の柱のメイ

ンと位置付けられている。

●「クロアチア系問題の解決」学術会議の開催(15～16日)

15～16日、クロアチア民族評議会(HNS)、クロアチア科学・芸術アカデミーBH等の共催による「欧州国家BHに向けたクロアチア系問題の解決」と題した学術会議がネウムにおいて開催され、チョービッチ大統領評議会メンバー(クロアチア系)、HNS幹部、クロアチア系学術関係者など350名以上が出席した。

●大統領評議会議長の交代(17日)

17日、イゼトベゴビッチ大統領評議会メンバー(ボシュニャク系)が、チョービッチ・メンバー(クロアチア系)に代わり、同評議会の議長に

就任した。

大統領評議会は、各主要民族代表3名による8か月毎の輪番制を採っており、イゼトベゴビッチ議長の任期は2018年11月16日まで。但し、10月に予定される大統領評議会選挙の結果を受けた新評議会の発足がこれより早い場合は、任期が短縮される。

●ITA、増税による歳入分配をめぐり対立(22日)

22日、間接税庁(ITA)はモスタルにおいて運営委員会会合を実施した。本年2月に、高速道路の建設費用に充てることを主要目的として施行された燃料税増税法による増収分を含む高速道路歳入3,720万KM(約1,900万ユーロ)の配分につき協議したが、その配分方法をめぐりRSとBH連邦が対立し合意出来ず。結果的に、両エンティティ及びブルチュコ特別区的全構成地域に対し、高速道路建設向け同増収分の配分が全額見送られることとなった。

●BH刑事訴訟法に対する違憲判決の履行をめぐる攻防(20~22日)

22日、BH憲法裁判所は会合を実施したが、同裁判所が2017年6月に出し、まだ履行されていないBH刑事訴訟法に対する違憲判決への対応は見送られた。通常このような場合、該当条項を無効化もしくは削除する決定を行うが、今回該当するのが検察庁による新規起訴の根拠となる条文のため、その重要性を鑑み3月から同決定が見送られており、議会による改正が待たれている。

一方議会では、20日に同法案に関するHDZによる改正法案がBH議会両院に提出されており、21日には、SDA議員団提出の改正

法案がBH議会下院の第二読会において緊急審議手続きにより承認された。しかし、両党共に歩み寄る姿勢は見せておらず、動向が注目されている。

(2)エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●BH独立記念祝賀行事を開催(1日)

1日、BH連邦においてBH独立記念祝賀に関する各種行事が開催された。一方、RSは例年の通り、同日を祝日扱いとしなかった。

●トウズラ・カントンにおいて元 SDA 議員らが新党立上げ(4日)

4日、トウズラ・カントン政府の交代を支持し除籍になった元SDA議員等が立ち上げた民主行動運動(PDA, Movement for Democratic Action)が、新党結成会合を実施。SDAの全国党プログラム会議の同日である24日には、初の党大会を実施し、約3,000名が参加した。

一方、トウズラ・カントンの政府転覆の黒幕だと言われているクキッチ副党首は、16日のSDA幹部会において正式に除籍となった。

●BH連邦議会の開催につき与党代表者らが会合(6日、13日、20日)

6日、チャバラBH連邦大統領(HDZ)は、BH連邦議会会合が1月末から開催されていないこう着状態につき、同議会与党の代表者らと会合を行ったが、結論は出ず。翌13日に会合を持つも同様の結果になり、次の20日の会合には、SDAは、24日の党会合で同問題に関する立場を決めるとして、参加を見送った。

●モスタル市議会選挙につき主要政党が会合を継続(16日、29日)

16日、2月26日に引き続き、モスタルにおいて、BH主要政党9党の地元代表が2008年以来実施されていないモスタル市議会選挙問題の解決につき、国際社会の同席の下で協議を行った。しかし、再びHDZとSDAが互いに譲らず具体的な協議に至らなかった。29日に再び会合を持ち、SDAが提案している副市長の導入等につき、今後協議を行うことで同意。

●サラエボ・カントン首相の罷免(19日)

19日、サラエボ・カントン議会は、コナコビッチ同カントン首相に対する不信任投票を行い、賛成多数により同首相を罷免した。22日、SDA幹部会の提案によりゾリ現BH連邦道路公団取締役が次期首相候補として正式指名された。

罷免されたコナコビッチ元首相は、在任中に推し進めた公営企業の癒着体質改革をめぐりSDA本部と対立し、2月にSDAを離党し、3月12日には新党「人民と正義(People and Justice)」の結成を発表している。

イ スルブスカ共和国(RS)

●スレブレニツァ市議会、ドディックRS大統領に勲章を授与(5日)

5日、スレブレニツァ市議会は、ドディックRS大統領に本年の同市の最高功労者勲章を授与することを決定し、ボシュニャク系議員は議場を退出した。

11日、スレブレニツァ市の日祝賀行事が開催され、プリン・セルビア国防相出席の下、ドディック大統領に対し勲章の授与式を実施した。

●チェトニック・メンバーが集会を実施(13日)

13日、ビシェグラード市において、同市退役軍人会及びチェトニック(注:セルビア系民族主義組織)のメンバー等が集まり、第二次世界大戦時のチェトニックのリーダーであったミハエロビッチの逮捕から72周年の集会を実施した。参加者はチェトニックの旗を掲げ、街の中心で追悼の花輪を手向けた。

●「夜の狼」の「ロシアー西バルカン・ツアー」RSに到着(21日)

21日、露のバイカー・クラブ「夜の狼」のメンバー約20名が、セルビアのベオグラードから9日間で西バルカンをめぐるツアーの一環で、RSのビエリナ市に到着。その後、パニャールカ市、ドボイ市を訪問したが、ドディックRS大統領とは面会せず、23日に再びセルビアに向けて出発した。

同クラブは東欧諸国や独に支部を持つ20数名のバイカーのグループであるが、実態はプーチン大統領体制における露の愛国心を宣伝促進する組織であると言われており、2014年にはクリミアの分離をめぐり米国財務省のブラックリストに掲載されている。一方で、ドディックRS大統領は同グループとの関係を強めており、メクティッチ治安相が同ツアーに懸念を表明した他、BH国境警察は同グループ代表及びバルカン支部長がBHの入国禁止対象である旨発表し、同グループのRS訪問に注目が集まっていた。

●RS最高監察官に代行の元財務次官補を任命(22日)

22日、RS国民議会は、RS政府による赤字額の間違いを指摘して政府と対立し、昨年8

月に辞任したRS最高監察官の後任として、ラドゥキッチ元財務次官補を、副監察官にトウルニニッチ現RS郵便公社執行役員を任命した。

前監察官の辞任をめぐっては、RS与野党が衝突をし、与党が警察を動員して野党を締め出す騒ぎになった他、代行の任命においても、RS監査法で同職の代理は認められておらず、かつラドゥキッチ氏は財務省職員(当時)であり利益相反であるとして野党が強硬に反対を続けていた。

●RSのボシュニャク系及びクロアチア系が次期選挙に向けて合意(28日)

28日、スレブレニツァにおいて、ドゥラコビッチ前スレブレニツァ市長の呼びかけにより、RSのボシュニャク系及びクロアチア系政党が会合を実施し、10月の国政選挙では、RS内での共同候補者リストで臨むことを決定した。

ウ ブルチュコ特別区

●境界画定調整官らのブルチュコ訪問(7～8日)

7～8日、ウィリアムソン・ブルチュコ内エンティ境界画定調停官及びハーン副上級代表兼ブルチュコ特別区監理官が、ブルチュコ特別区18周年の祝賀行事に合わせて同特別区を訪問し、ミリッチ同特別区市長等と会談を行った。会談中、ハーン監理官は、ミリッチ市長に対し、2018年予算及びブルチュコ河川港の現代化プロジェクトの採択を優先課題として取り組むよう求めた。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●BH、セルビア、クロアチアによる3か国会合(6日)

6日、モスタル市において、BH、セルビア、クロアチアの3か国の大統領による会合が開催され、西バルカン地域へのEU拡大や国境画定を始めとする二国間問題等が協議された。また、今回の会合には、3か国の外相も同行しており、外相間の会合も開催された。

●西バルカン外相会合の実施(16日)

16日、サラエボにおいて、BH、セルビア、モンテネグロ、マケドニア、コソボ及びマケドニアの6か国による西バルカン外相会合が開催され、西バルカンの地域協力へのコミットメントと欧州統合への決意を新たに確認する旨の共同声明に署名を行った。同会合は、6月にロンドンにおいて行われるEU西バルカン首脳会合の準備会合として位置づけられ、6か国の外相に加え、ダニエルソン欧州委員会近隣政策・拡大交渉局長、ザハリエヴァ・ブルガリア外相及びダンカン英国外務省閣外相等が参加した。

(2) 二国間関係

●BH・イラン外相会談(2日)

2日、ツルナダク外相はBHを訪問中のザリーフ・イラン外相と会談を行い、二国間関係及び地域情勢を協議した。また、外務省間の政務協議の再開が合意された他、二国間の査証体制や直接送金等の案件が話し合われた。

●ジョージア外相のBH訪問(5～6日)

5～6日、ジャンネリゼ・ジョージア副首相兼外相がBHを訪問し、ツルナダク外相及びイゼトベゴビッチ大統領評議会メンバーと個別に会

談を行った。外相会談においては、現在は年間50万ユーロに満たない貿易額の増加を始めとした経済関係の改善を念頭に、二国間関係の強化に関する覚書を締結した。

●BH閣僚団のマケドニア訪問(11~12日)

11~12日、ズビズディッチ閣僚評議会議長(首相に相当)率いるBH閣僚団はマケドニアを訪問し、BH・マケドニア首相会談及び合同閣議を実施した。会談では、二国間関係の促進や欧州統合、貿易、西バルカン地域協力などについて協議した。また、閣議では、BH及びマケドニア市民に対し身分証のみで相互の往来を可能とする合意、及び教育の相互促進に関する協定が署名された。

●トルコ首相等のBH訪問(29~30日)

29~30日、ユルドウルム首相率いるトルコ政府代表団がBHを公式訪問し、BH・トルコ合同閣議に加え、大統領評議会とも会談を行った。合同閣議では、トルコが融資を行うサラエボ・ベオグラード間の高速道路建設に関しても協議を行った。ユルドウルム首相は、今回の訪問が本年中頃に予定されるエルドアン大統領のBH訪問に向けた準備であったことを強調した。

3. 経済

(1) 経済政策、公共事業

●BH、欧州における投資の費用対効果面第3位を獲得

フィナンシャル・タイムズ傘下のfDiは「欧州の都市及び地域の未来2018-2019」を発表し、BHは、投資における費用対効果に将来性のある中規模地域(BH全土が同規模に該当)において第3位を獲得した。都市別のラ

ンキングでは、同じく費用対効果面で、ビエリナ市、プリエドル市の他、ズボルニク市が5位以内にランクインした。

●BH政府、BHディアスポラのためのポータルサイトの立ち上げ(22日)

12日、人権難民省はスイス政府、UNDP及びIOMとの共同プロジェクトの一環として、世界に拡散するBHディアスポラとの相互のコミュニケーションを目的としたサイトを立ち上げた(<http://dijaspora.mhrr.gov.ba/>)。同サイトでは、ディアスポラに対して様々な資料を配付する他、政府案件や入札情報を公開し、また彼らの意見を取り入れる機能も設けている。政府は、ディアスポラの持つ情報や意見、技術を吸収し、公共政策や移民方針に反映することがBHの経済発展に好影響を及ぼすと見ている。

(2) 経済協力

●BH初のウインド・ファームが稼働を開始(14日)

14日、BH南西部トミスラヴグラド市のメシホビナにおいてBH初のウインド・ファームの稼働式が開催された。同ファームは、Elektropri vreda HZHBが2004年に開始したウインド・ファーム10カ所の建設・改修プロジェクトのうちの3カ所にあたり、プロジェクト費用の大半は、独政府による総額8,200万ユーロの支援(7,200万がユーロ借款、1,000万が無償支援)が充てられている。今回の稼働したファームは、22基のタービンを装備し、年間165GWhを発電する。

●中国、経済・技術協力に2億元を供与(20日)

20日、ベバンダ副首相兼財務相は、Chen Bo中国大使と、2億元(約2,600万ユーロ)相当の中国による経済及び技術協力無償供与契約に署名を行った。同相によると、中国とは2017年にも4,900万ユーロ相当の同様の無償供与契約を締結しており、BH 国境警察の装備購入に充てられたという。今回の無償資金の使用方法は、今後、BH閣僚評議会と中国側の交渉によって決定される。

(3)民間セクター

●アルセロール・ミittal社、創業以来最大の改修開始を発表(23日)

23日、BH最大の鉄鋼メーカーであるアルセロール・ミittal社は、近く7,500万KM(約3,830万ユーロ)を投入し、1989年以来最大規模となるオーバーホールを開始する旨発表した。期間は6月末迄を予定しており、高炉のオーバーホールだけでなく、15-20年のプラントの延命化及び環境基準適合に関する改修も行われる。

(了)